

## 普及活動情勢報告（令和８年７月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

### 虫にも、夏の暑さにも負けず ～JA高知県仁淀川地区露地ししとう部会現地検討会～



6月17日、JA高知県仁淀川地区の露地ししとう部会現地検討会が開催され、生産者5名が参加しました。

当課からは、昨年度実施したヨトウ類の発発生消長と薬剤感受性検定結果を踏まえた防除指導やSAWACHIへの加入推進、熱中症対策の啓発等を行いました。

生産者からは、ヨトウ類は毎年発生しているので、薬剤感受性検定の結果を踏まえて防除を行いたい、との声がありました。

農業改良普及課は、今後も野菜の生産安定に向けて活動を継続していきます。

### ユズの隔年結果防止を目指して ～JA高知県コスモス柚子部会研修会～



6月19日、JA高知県コスモス柚子部会の研修会が吾北地区で開催され、生産者23名が参加しました。

令和4年以降、吾北地区では隔年結果が顕著になっています。

農業改良普及課で、要因分析した結果、施肥量の不足がその一因になっていることが明らかになったため、施肥と収量の関係を研修しました。

生産者からは、肥料と堆肥の違いや施肥のタイミングについての質問もあり、生産意欲の高まりも感じられました。

農業改良普及課は、今後も高吾北地域のユズ栽培を振興して参ります。

### 関係機関で新規就農者確保の取組事例を学びました ～北川村のユズ振興ビジョンの取り組み視察研修～



6月24日、いの町、いの町農業公社、JA、農業改良普及課職員の計12名で、北川村へのユズの新規就農者確保の取り組みの視察研修を行いました。

研修では、ユズ振興ビジョンの作成の背景や、基盤整備や地域おこし協力隊制度等を活用した新規就農者の確保の取り組みを学び、参加者からは「就農希望者の呼び込みはどのようにしているのか」等の積極的な質問も出ました。

いの町においてもユズの振興を進めており、参考になることも多い研修となりました。農業改良普及課は、今後も関係機関と連携しながら、ユズの担い手の確保を進めていきます。

優良農地の円滑な継承を目指して  
～いの町吾北地区優良農地継承推進協議会の開催～



6月25日、いの町吾北総合支所において、「いの町吾北地区優良農地継承推進協議会」の初めての定例会が開催され、吾北地域の農業委員及び関係機関職員の計12名が出席しました。

会では、これまでに関係機関で優良農地として判定した農地の営農状況等について共有しました。また、農地を探している担い手の情報を新たに把握した際には、協議会で共有しながら、農地を貸したい所有者とのマッチングを進めていくこと等を確認しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携しながら担い手の確保や育成を進めていき、吾北地域の農地を維持できるよう支援していきます。

さらなる収量向上を目指して  
～土佐市胡瓜部会出荷反省会～



6月29日、JA高知県仁淀川営農経済センターにおいて、土佐市胡瓜部会の出荷反省会及び品種説明会が開催され、生産者17名が参加しました。

農業改良普及課はR8園芸年度の実証ほの調査実績、次作に向けた取り組みについて説明しました。

生産者からは、「光合成がしっかり行える環境づくりが重要だと感じた」、「来作に向けて栽培初期の管理を見直したい」などの声がありました。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携し、収量向上を目指して環境制御技術の普及に取り組んでいきます。

加温機やトラクターのメンテナンスを学ぼう  
～農業基礎講座の開催～

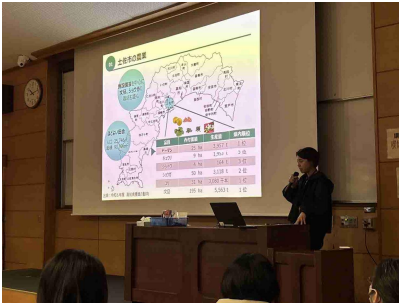


6月29日と7月2日に、土佐市において、農業改良普及課の主催で、新規就農者を対象とした「加温機のメンテナンス」「農業用機械のメンテナンス・操作」に関する研修会を開催し、研修生・新規就農者延べ9名が参加しました。

研修会では、加温機メーカー、JA農機センター担当者から説明をしていただき、参加者からは「メンテナンスの方法がわかった」「機械の操作方法を学ぶことができてよかった」等の声がありました。

農業改良普及課は、今後も研修会の開催等を通じて新規就農者の育成に取り組んでいきます。

大学生に土佐市の農業をPR  
～高知大学農林海洋科学部で出前授業を開催～



6月30日、高知大学物部キャンパスにおいて、農業担い手支援課、農業イノベーション推進課ほか県関係部署で、高知県の農業やI o P、担い手確保に向けた取組、各産地を紹介する講座を開催し、高知大生169人が参加しました。

農業改良普及課は、土佐市で就農するまでの流れや新規就農者の事例、農業を知ってもらう取組を紹介しました。

アンケートでは、参加者の4割以上から、「一度就職してから、または時期は決まっていないが、将来就農を考えている、または可能性がある」との声がありました。また、参加者の8割以上は、「農業体験やアルバイトをしたい」との意向がありました。

農業改良普及課では、今後も関係機関と連携して、担い手や労働力確保に向けた取組を継続していきます。